

◆ プログラム ◆

11月16日（金）【1日目】

時間	内容
12:00～12:50	総会
12:30～	受付
13:30～15:10	分科会【第1部】
	(1)基礎学力 学習動機向上に取り組んでいる事例 ／関西学院中学部・高等部
	(2)グローバル社会の一員として ～カリキュラムと課外活動での取り組み～ ／甲南高等学校・中学校
	(3)大学と附属・併設校との教育連携プログラム実践事例 ／玉川学園中学部・高等部 ／昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校
15:30～17:30	(4)探求型学習の指導とその射程 ／啓明学院中学校・高等学校 ／早稲田大学本庄高等学院
	開会行事 連盟会長挨拶 基調講演 「新しい学力の創出を目指す教育改革」 当初予定 前 文部科学副大臣 鈴木 寛 氏 ※代理登壇 文部科学省大臣官房審議官(初等中等教育局担当) 関 靖直 氏
18:00～20:00	懇親会(任意参加)

11月17日（土）【2日目】

時間	内容
9:00～	受付
9:45～11:25	分科会【第2部】
	(1)理科 実験・観察など大学附属校ならではの理科教育 ／中央大学附属中学校・高等学校
	(2)高大接続とIB教育 ／立命館宇治中学校・高等学校
	(3)教育相談体制のあり方 ／立教池袋中学校・高等学校
11:30～12:00	(4)教員研修 若手教員育成(教科教育力) ／東海大学 教育開発研究所
	閉会行事

■ 分科会【第1部】 ■ 11月16日（金） 13:30-15:10

（1） 基礎学力 学習動機向上に取り組んでいる事例

／ 関西学院中学部・高等部

発表者： 関西学院高等部 数学科教諭 中田 和宏 氏

概要： 「数学の再テストの取り組み」。

「基礎学力向上への各校の取り組みの紹介」。

全国的な学力低下が問題となる中、系列大学・高校への推薦入学における学力レベルの維持について、どんな取り組みをされているかを話し合い、問題点や課題を共有する。

（2） グローバル社会の一員として～カリキュラムと課外活動での取り組み～

／ 甲南高等学校・中学校

発表者： 甲南高等学校・中学校 教育研究部長 中原 敦 氏

沖縄尚学高等学校・附属中学校 教諭 上野 浩司 氏

概要： グローバル化する世界に飛び出していく若者たちに中高時代にどんな経験をさせるべきか。カリキュラム内外での取り組みを紹介する。

甲南高校は3カ月の留学を含んで、英語・国語・地歴公民・総合学習の授業を通じて国際理解教育を行うグローバルスタディプログラムを紹介する。

沖縄尚学高校は、部活動を通じての国際交流・貢献活動を世界の教育ネットワークの場で発信・交流してきた、「アイアーン沖尚部」の様々な取り組みを紹介する。近年では自然災害の救援・復興援助のための募金活動等を、国外にとどまらず、東北の被災地支援として継続している。

（3） 大学と附属・併設校との教育連携プログラム実践事例

／ 玉川学園中学部・高等部、昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校

発表者： 玉川学園中学部・高等部 学園教学部長 石塚 清章 氏

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校 副校長 會川 恵志 氏

教務部長 石塚 英光 氏

概要： 幼小連携、小中一貫、中高一貫、高大連携など、学校間接続の円滑化が求められています。本研究集会の加盟校は、附属校・併設校ですので、特に系列大学との連携が密接です。本分科会では、各校が持つ特徴的な連携プログラムについて、その傾向や実施の状況をアンケート調査し、集計結果を発表します。

また、連携プログラムの実践事例として、玉川学園中学部・高等部より玉川大学および玉川大学学術研究所等との連携プログラムを紹介します。昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校からは、すでに学内に定着している「五修生制度」を中心に、連携プログラムを発表します。

（4） 探求型学習の指導とその射程

／ 啓明学院中学校・高等学校、早稲田大学本庄高等学院

発表者： 啓明学院中学校・高等学校 教諭 嶺坂 尚 氏

早稲田大学本庄高等学院 教諭 半田 亨 氏

概要： 社会のネットワーク化・国際化の影響は、教育においても例外ではない。現指導要領における新教科「情報」「総合学習」の導入は、その動きを反映させるにタイムリーだったといえる。これまで最も多かった取り組みは「調べ学習」であるが、この学習はともすると「調べっぱなし学習」になってしまう危険性を孕んでいる。

だが、しっかりしたスケジューリングと指導体制で行えば、多様な力や知識・知性を養う探究型教育プログラムとなりうる。この分科会では、早稲田大学本庄高等学院からの「卒業論文制度」、啓明学院からの「読書科・学術研究カリキュラムの指導」を例に、探究型学習の意義と注意点を考えたい。

■ 分科会【第2部】 ■ 11月17日（土） 9:45-11:25

(1) 理科 実験・観察など大学附属校ならではの理科教育

／中央大学附属中学校・高等学校

発表者：中央大学附属中学校・高等学校 教諭 岡崎 弘幸 氏

概要：本校理科の授業は、中高とも実験や観察を重視しています。附属中学校では自分で考え判断し、行動する習慣を身につけるため、実験や観察は3年間で100回を目指しています。第二分野では、ブタの心臓や腎臓の解剖、ダンゴムシを使った行動実験などを生徒自らが行います。またプロジェクト・イン・サイエンスという授業では、発展的実験として大学の機器を使った専門実験（ロボットの基本を学ぶ・振動や磁場中の電子の円運動の観察など）も行います。高校では遺伝子組換え実験など附属ならではの実験を行っていますので、その実績報告をしたいと思います。

(2) 高大連携とIB教育

／立命館宇治中学校・高等学校

発表者：立命館宇治中学校・高等学校 高校教頭 八木 誠 氏

概要：本校は立命館大学の附属校であり、9割の生徒が学内推薦により立命館大学・立命館アジア太平洋大学に進学する。大学との連携による授業を展開し、いわゆる受験学力の育成を目標とはせず、主体的に学びを深める探究型の学びを通して、アカデミックスキルの修得を追求している。また、世界基準の教育プログラムである International Baccalaureate（国際バカロレア, IB）のディプロマプログラム(DP)を実践しており、海外大学進学者を輩出している。これらの取り組みを通じ、これからの大学入学選抜のありかた、国際社会で通用する人材の育成について、課題を共有したい。

(3) 教育相談体制のあり方

／立教池袋中学校・高等学校

発表者：武蔵高等学校中学校 スクールカウンセラー 高野 利雄 氏

概要：個を大切にしたい実践教育をしていくには、一人一人の生徒の心の様子とその背景を理解するところから始まります。またその教育実践は、全教職員のコンセンサスが得られていなければ実を結ぶことができません。生徒への心理的援助は、スクールカウンセラーを配置するというだけで十分というものではありません。立教池袋中高では、教員の生徒へのカウンセリング的アプローチを充実するために、教師自身がその力量を高める研修を行い、組織的な相談援助体制を構築していく試みを進めています。一つの実践として紹介し、今の教育現場に必要なとされる実ある教育相談体制のあり方について、皆さんとともに考えていきたいと思います。

(4) 教員研修 若手教員育成（教科教育力）

／東海大学 教育開発研究所

発表者：東海大学 教育開発研究所 所長 教育学士博士 滝川 洋二 氏

概要：東海大学教育開発研究所は、14の付属高校、7の付属中学の数学・理科・英語の教員の研修を担当している。世界の教育の研究をベースに、教科内容と生徒の理解を促す教育方法を開発してきている。先生個人を対象とした教員研修会（土曜研修）・夏期集中教員研修会と、教開研が学校を訪問し、教科や学校の先生を対象に行う学校研修と公開授業、その発展として次年度には地域連携教育改革プロジェクトが実施され、研修を通じて、授業だけでなく、学校改革にも意欲的に取り組む先生を育てる支援を行う。理科では、100円ショップで購入した材料で教材開発を参加者が行う研修も行っている。